

カーボンプライシングを取り巻く議論とCAPMの考え方

吉 野 直 行
湯 山 智 教 CMA

目 次

1. はじめに
2. カーボンプライシングについて
3. カーボンプライシングとCAPM（資本資産価格モデル）
4. 終わりに

1. はじめに

2020年G20リヤド・サミットにおける菅総理の「カーボンニュートラル宣言」を受けた「2050年カーボンニュートラルに向けたグリーン成長戦略」（2020年12月25日策定）により、脱炭素社会・持続可能な社会への移行、気候変動対策・経済対策としての投資・イノベーションの推進、経済成長につながるカーボンプライシング（Carbon Pricing）に取り組む旨を日本政府は表明し、脱

炭素化の実現に向けた議論が活発化している。地球温暖化対策でも、財政赤字のツケを次世代に残さないことと同様、現世代でできるだけのことを進めていかなければならない（注1）。本稿は、脱炭素社会に向けたE（Environment：環境）に主に焦点を当てて検討し、グリーン投資等に伴うポートフォリオ選択の歪みについて言及し、カーボンプライシングの考え方を適用した炭素税やグリーン格付けが、最適ポートフォリオ選択に資することを説明したい。



吉野 直行（よしの なおゆき）

慶應義塾大学経済学部名誉教授、金融庁金融研究センター長、政策研究大学院大学客員教授。東北大学卒業、米国ジョンスホプキンス大学経済学博士（Ph.D）。ニューヨーク州立大学助教授、慶應義塾大学経済研究所所長、財務省外国為替審議会会長、金融審議会会長、アジア開発銀行研究所所長を歴任。スウェーデン／ヨーテボリ大学名誉博士、ドイツ／マルティンルター大学ハレヴィッテンベルグ名誉博士、最近の編著は、*Handbook of Green Finance*（2019年、Springer）など多数。



湯山 智教（ゆやま とものり）

ジョージタウン大学シニアフェロー、金融庁金融研究センター研究官。早稲田大学博士（商学）。慶應義塾大学・同大学院修了。三菱総研、金融庁（総合政策局、監督局、証券取引等監視委員会事務局他）、日本銀行金融市場局、財務省理財局、東京大学特任教授などを経て現職。最近の著書に『ESG投資とパフォーマンス』（編著、金融財政事情研究会、2020年）など。